

高2沖縄修学旅行記（記：井上教頭先生）

沖縄第1日目（10月6日）

サプライズ!!卒業生K9回外間（ほかま）久子さんがホテルに来て下さいました!!

晴天に恵まれ函館を出発しました。飛行機に乗るのが初めての生徒もいて、離陸時におおいに盛り上がりました。羽田空港で2時間の待ち時間がありました。生徒のみんなは持参のお弁当を待合スペース各所で思い思いのかたちでいただいていた、とても楽しそうでした。那覇行きの飛行機にも元気に搭乗し、2時間半後に無事沖縄に到着。飛行機を降りた瞬間、だれもが「暑い!」と声を上げていました。空港から歩いてバス乗り場へ着いたときに誰かが「虹だ!」とっています。確かにきれいな虹が出ていました。

その後最初の訪問地は「ウミカジテラス」です。みんなお目当てのお店でアイスクリームやかき氷などをおいしそうに食べていました。その後ホテルに移動して19:00に夕食会場へ。

そのときに一番のサプライズがありました。遺愛の大先輩、K9回卒業の外間久子さんが会いに来て下さいました。食事前のひと時、外間さんが戦中・戦後の壮絶な体験談をお話なさり、全員真剣に聴き入っていました。戦争の理不尽さと平和の重要さを説いた、迫力あるメッセージはひとりひとりの胸に深く刻まれました。一日目は全日程遅刻者もなく、全員元気に終えることができ、修学旅行の最高のスタートになりました。



函館空港出発



ウミカジテラス



沖縄アイス



外間さんと先生方

沖縄第2日目（10月7日） 平和学習プログラム

午前中→ガマ入壕体験

午後→沖縄県平和祈念公園・ひめゆりの塔

朝、バスに乗って平和学習の一日がスタートしました。ガイドさんの説明に熱心に聴き入る生徒。ガイドさん曰く「こんなに一生懸命に聴いてくれる生徒さんは初めてです」しばらく走行しているとガイドさん「このあと右手に見えてくる海の景色が大変きれいです。」その後生徒から「きれい!」と大歓声が上がりました。ガイドさん曰く「私は今、海の美しさよりも、みなさんの純粋さに心が洗われるような思いがしています。」とても印象に残る一場面でした。

4つの場所にわかれてガマに入壕しました。戦争中無数の悲劇の現場となった場所に立ち、平和への思いを新たにしました。昼食は沖縄名物の「ソーキそば」を美味しくいただきました。

平和祈念公園では、猛烈な暑さの中ではあったのですが、平和の礎を見学し、その後資料館でみんな熱心に見学しました。ひとつひとつの資料を丁寧に見学する人が多く、時間が足りないという声も聞こえてきました。

ひめゆりの塔では祈りをささげ、平和講和を拝聴しました。非常に有意義な時間となりました。函館にいても、いろいろな平和学習は可能なのですが、やはり「現場」での学びは臨場感と迫力が全然違います。一人一人が心の深いところまで「戦争と平和」についての問題と向き合う一日になったように思います。



平和祈念公園



いざ、ガマへ!



ひめゆり祈念資料館

沖縄3日目（10月8日） 美ら海水族館→リゾートホテルビーチ研修

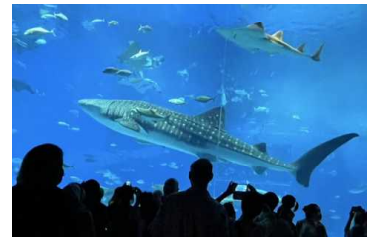
朝の食事時の話題はもっぱら天気の話でした。天気予報が雨だったからです。高久先生は「私は晴れ男なので大丈夫です。」とおっしゃっているのですが、なぜかみなさんが高久先生にお願いするという状況になっています。「高久先生なんとか雨雲を追い払ってください。」

空は那覇を出発するときには明るかったのですが、北上するにしたがってだんだん暗くなっていきます。本部半島が見えてくると真っ黒い雨雲。名護市のあたりで激しい雨が降っていることが遠くからでもはっきり見て取れます。それを見て、バス内では天沼先生の高久先生へのお願いがいよいよ切実になります。「高久先生なんとかしてください！」にもかかわらず、ファイターズのキャンプ地・名護市を走っているときは土砂降りの雨です。美ら海水族館についたときにまだ雨が降っていたのですが、なんとかクラス写真を撮っている最中に不思議と雨が上がってきました。

こうして高久先生「晴れ男説」は証明されました。生徒の皆さんは「イルカショー」を観たり、巨大水槽に見入ったり、思い思いの昼ご飯やアイスクリームを食べ、おみやげをたくさん購入して大満足の表情でバスに帰ってきました。

午後はリゾートホテルの美しいプライベートビーチが遺愛生専用の状態となり、東シナ海に歓声が響き渡りました。泳ぐ人、波打ち際ダイブを楽しむ人、ひたすら砂山をつくる人、浮き輪でプカプカ漂流する人・・・みんな思い切り楽しんでいました。

高久先生の力で雨雲も追い払いました。



沖縄4日目（10月9日） おきなわワールド→那覇市内自主研修

美しい東シナ海の絶景から一日がスタートしました。海沿いの道を少し歩いて朝食会場へと向かうのですが、日が昇ってくるにしたがって海の色が微妙に変化し、刻々と違った表情の美しさ変わっていきます。ずっと眺めていても飽きないだろうと思われるすばらしさでした。みんなでおいしい朝食をいただいてからそれぞれのお部屋を片付け、ホテルを後にしました。バス移動の1時間、ガイドさんが工夫を凝らしたお話で盛り上げてくれます。今日のガイドさんの話題の中で最も印象的だったのは「沖縄の名字」でした。沖縄に多い名字ベスト5をランキング形式でクイズにしてくれました。生徒の側からもいろいろな回答が飛び交い、大いに盛り上がりました。1位比嘉（ひが）、2位金城（きんじょう）、3位大城（おおしろ）、4位宮城（みやぎ）、5位新垣（あらかき）というのが正解です。確かに日本のほかの地域とはずいぶん違いますね。1位の比嘉さんは本当に多くて、どんな学校のどんなクラスにもたいてい何人もいるそうです。「2位から4位まで、いずれも『城』という字が入っているのですが、すべて読み方が違うのも面白いですね。」というお話もありました。

そうこうしているうちに「おきなわワールド」です。時間はあまりなかったのですが、東洋一といわれる鍾乳洞「玉泉洞」と、大迫力の「エイサーショー」を満喫しました。そしていよいよ昼からは楽しみにしていた自主研修です。そろった班から順次沖縄県庁前を出発。多くの皆さんは国際通り周辺でショッピングを楽しんだようです。みんな大きな御土産袋をかかえ、大満足の様子で帰ってきました。今日も遅刻者ゼロ。みんななかよく過ごすことができている、本当に素晴らしいと思います。昼ちょっと体調がよくない生徒もいましたが、ほどなく回復し、最終的には全員自主研修を楽しむことができました。4日目もとても良い一日でした。



沖縄ワールド



エイサーショー



国際通り



時間通りホテル到着

沖縄最終日（5日目 10月10日）首里城→那覇空港→羽田空港→函館空港



最後の朝を迎えました。前半 ABC クラス、後半 HIJ クラスということで2グループに分かれての食事、出発、首里城の見学という流れになりました。

3年前に焼失してしまった首里城は急ピッチで再建が進められていて2026年完成予定ということでした。いくつかの門など焼失を免れた遺構を見学したり、那覇の街を見渡す素晴らしい眺望を楽しんだり、さまざまな伝説を学んだり・・・最後の見学地でもとても良い時間を過ごすことができました。

空港では5日間お世話になったガイドさん 運転手さん 看護師さんとお別れです。みなさん名残惜しそうにしていました。「沖縄にはお別れの挨拶はありません。再会の約束があるだけです。みなさんまた沖縄に来てくださいね。そしてまたいつかお会いしましょう。」ガイドさんのことばが心に残りました。

帰りの羽田空港の待ち時間にあったふたつのできごとを紹介します。

①卒業生との再会

「井上先生、お元気ですか！？ 久しぶりにお休みがとれて、帰省することができ、空港に来て見たら、懐かしい制服を着た遺愛生が大勢いて、おもわず知ってる先生を探してしまいました。こんなところで先生に会えるなんて、うれしいです！」

話しかけてくれたのは15年前の卒業生です。千葉で看護系のおしごとをしている近況報告と、同期の卒業生たちの動向をいろいろと聞くことができました。遺愛卒生の結束は固く、関東在住の同期生は、連絡を取り合ったり、たまに集まったりしながら、仲良くしているようで、とても嬉しく思いました。

②有名人との遭遇（目撃者からのひみつ情報）

生徒のみなさんはあまり気づいていなかったようですが、某有名政治家と行き合いました。その方が警護とおもわれる随伴者に話している内容が聞こえてきました。

「修学旅行生だね。この制服は清潔感があってとてもいいね。生徒もしっかりしているし、きっといい学校なんだろうね・・・」なんかうれしく思ったおはなしでした。

でもいちばんうれしかったことはみんな笑顔で元気に函館に帰ってくることができたことです。生徒のみなさんが周囲の友人と思いやりを持って仲良く接し、先生方の連絡や指示をよく聞きよく守ってくれたおかげだと思います。みなさん、おつかれさまでした！



2024年10月15日(火)